

時間内入浴は当然の権利だ

勝利争闘ジェット三里塚 / 粉砕革行調臨

当局の手先「タレコシ」の「本部」革マルを職場から放逐し、
国労共闘を強化して叩いぬこう!

千鉄当局は、運輸・施設関係の職場に対して、時間内入浴を禁止するという重大な攻撃をかけた。当局は、昨日(三月十一日)「三月十四日より時間内入浴を禁止する」との一方的強行実施を通告する掲示を一齐に掲出した。全組合員の皆さん、この重大な国鉄労働運動解体攻撃に時間内入浴禁止に対し、第六回定期委員会の決定方針に踏まえて、国労共闘を確立して、断固闘い抜こう。

勤務時間内入浴は当然の権利

国鉄当局は、昨年より「職場規律の厳正」化攻撃に国鉄労働運動解体攻撃を全国的に激化させてきた。

とりわけ、今日、「時間内入浴問題」を「職場規律問題」としてとりあげ、バス廃止と並ぶ国鉄労働者にとって戦前からの慣行と権利を一方的に剥奪しようとしているのである。しかし、この勤務時間内入浴は、国鉄の汚損職場では、労働条件の一部として、長年にわたって当局も認め、団体交渉によって協定などで締結されていることからなのである。

しかも、「63年国労田町電車区入浴闘争」と裁判闘争における完全な勝利によって「勤務時間内入浴」は、国鉄労働者の当然の権利であり慣行であると認められてきたものである。

千鉄当局は、「千葉局内の入浴時間は、適正である」と自ら認めておきながら、今日、東京三局に歩調を合わせ、「入浴規制」攻撃を来週早々にも強行しようとしている。

時間内入浴禁止攻撃は、大合理化の前ぶれ

国鉄当局は、「時間内入浴禁止」をもって全国の闘う運輸検修職場を叩きつぶす攻撃として強行しているのだ。時間内入浴の禁止攻撃は、文字通り、勤務時間内の労働強化に人員合理化に直ちに直結する攻撃であり、ひいては、大合理化につながる攻撃であることは明らかだ。

今こそ動労「本部」革マル追放・動労大改革をかちとろう

動労「本部」革マルは、こうした国鉄当局の攻撃のまえに完全に屈服しているばかりか、逆に闘いに決起しつつある全国の国鉄労働者に敵対を繰り返している。

「国労の入浴闘争は、挑発だ」「風呂場にカギをかける」などと当局と一体となって国労の入浴闘争に敵対し、「現認」し、当局にタレ込んでくるのだ。どうしてこのような動労「本部」革マルを許せようか。否である。動労革マルの追放・掃蕩にわれわれの権利も生活も守れないのだ。当局と一体化した動労「本部」革マルを一掃し、今こそ動労大改革を勝ちとろう。強固な国労共闘で、時間内入浴闘争を断固闘い抜こう。

三月十一日の第六回定期委員会で決定した、入浴闘争を中心とする三月反合闘争の具体的戦術については次のとおりである。

- 一、三月十四日以降、時間内入浴規制に対決して闘う。
- 二、三月十五日から十七日、国労共闘の立場から次のとおり闘う。
- ① 時間外・休日労働の拒否行動
- ② 回復運転の拒否等非協力行動

必勝の候補夫昌江中 = 議選市橋船

中江昌夫に期待をこめて

総合選対委員長 太田虎雄 (花輪ヶ丘病院 会長)

私が中江君に会ったのは、わずかに二ヶ月程前のことでした。初対面の印象が良かった。為か、その後二、三回、来訪を受けた際も、気持よく、八十年代の政治展望などに就いて話し合うことが出来ました。

同君の態度から受ける、清潔・端正さ、その政治信条を語る時の、燃えるような情熱とは、聞く者に自ら共感を与える魅力を持っています。今回、社会党からの公認で船橋市議会議員に立候補するに当り、私は、以上のような同君に対する印象から、敢てその選対責任者を引受けた次第です。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ!